

コンテンツのねらい

「プロジェクト研究」（中学校数学科教育研究委員会）では、4つの領域「A数と式」「B図形」「C関数」「D資料の活用」ごとに、学習状況調査結果から見える課題だけでなく、研究委員の日々の見取りから、生徒に十分に身に付いていない学習内容・生徒がつまづきやすいと考えられる学習内容について取り上げ、指導改善に向けて協議を行っています。また、学習指導要領（平成29年告示）において「単元など内容や時間のまとまりを見通しながら、数学的活動を通して、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うことが重要である。」と示されたことを受け、単元を見通して指導に当たるためにどのようにすればよいかについても協議を行っています。

本研究委員会では、次の3つの資料をコンテンツとして作成しました。

- ・単元を見通して指導に当たるために、単元で学ぶ意義や目標などを示した単元図
- ・知識・技能の習得を目指す授業の工夫例
- ・思考力・判断力・表現力を育成する授業の展開例

単元を見通して指導に当たり、知識・技能の定着を図るとともに、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力を育むことに役立てていただきたいと思います。

コンテンツを使って

新しい単元の指導に入る前に、生徒がその単元を学ぶ意義（「なぜ学ぶのか」）や目標を確認し、学習内容が身に付いた生徒の単元のゴール時の姿をイメージしていただきたいと思います。「知識・技能の習得を目指す授業の工夫例」と「思考力・判断力・表現力を育成する授業の展開例」については、そのままお使いいただくことが可能です。例を基に、生徒の実態に応じてアレンジしてお使いいただくことも可能です。今回示した例以外にも、工夫できそうな指導や展開を考えて実践していただければと思います。